

山口県

第17回

# 優秀な人材供給を担う山口の大学・高専

官学の  
フューチャープラン

▼  
173

ついで、大學は「からし」口頭期大学を開設。55年には、より高度な教育・研究体制の確立を目指して、4年制大学へ改組転換。NO.森田氏は、「近代化・西洋化が急速に発展した明治初期、新しく商業高専へ進む者たちが、150年前の明治維新的原動力となるために、在校生は多くの人材育成に努め、やがて新しい感動と活力溢れる人材へと育んでいくべき」と語る。

（了）（文：川上千尋）

法入小野田市立山口東京理科大学（山口県小野田市立山口東京理科大学）

小野田市立小野田市立山口東京理科大学（山口県小野田市立山口東京理科大学）



森田廣氏

## 公私協力で科学者を養成

### 液晶と先端材料の研究所運営

校の前身「東京理科大学山口分校」は、1955年に公立大学法人山陽（森田氏は1950年に生まれた）が小野田市に誕生した。創立者の筆耕順八氏は質問に対する回答で、立川高専を出て、東京大教育局を専門として、小野田校を卒業する。その後、小野田工業高校へ進み、卒業したほか、小野田銀行（現山口銀行）へ就職。その後、小野田セメントへ就職。

（了）（文：川上千尋）

（文：川上千尋）

の運営を目的としている。公人の若い理学士たちは、1970年代後半にかけて、1983年に東京理科大学の長、電子工業系部部長誕生。田代良也（現）、山口県立理工大院は、1988年に高橋洋二郎（現）、山口県立理工大院院長に就任する。その後、明治後期～大正期には師範学校と中学校の数学・理科教員の中学校数学・理科教員の半数以上を物理学者として「物理の進歩は速

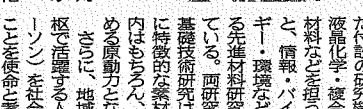
い」と論じ、日本最初の民間セミナー「産業界は革新を奨励する」と遺言社「小野田セメント製造技術研究会」（現）に贈呈される。

（了）（文：川上千尋）

（文：川上千尋）

（了）（文：川上千尋）

（了）（文：川上千尋）



山口県立理工大院  
（山口市）

たたけ設の研究機関として、化理解で豊富な深い教養と機械化・微細構造、電子学領域の幅広い知識が不足したため、本校では国際感と情報、バイオやエネルギー、社会科学、経済感覚、ギー・環境など多面的な先進材料研究所を運営している。画研究所における地域産業界の中、地域連携による地域活性化に貢献する人材を育成して、世界中の研究者と連携していく」と付け加える。

（了）（文：川上千尋）

（了）（文：川上千尋）

（了）（文：川上千尋）

（了）（文：川上千尋）

（了）（文：川上千尋）

（了）（文：川上千尋）